

ならナビ 「無人駅の活用で地域を元気に」

放送日：令和 7 年（2025）9 月 10 日 午後 6 時 30 分～

現在、地方での人口減少や運営コストの削減から、全国的に無人駅が増えています。万葉まほろば線(奈良駅と高田駅を結ぶ)の駅舎は明治から昭和初期にかけて建てられたものが多く沿線の 14 駅中 10 駅が無人駅です。各駅舎が持つ歴史的背景や地域の特性に合わせて、保存、再活用、建て替えといった様々な方法がとられ、これらの取り組みにより、無人駅が再び地域の中心地として賑わいを取り戻すことが期待されています。

再活用された駅舎の事例

京終駅（奈良市）：明治 31 年に建てられた駅舎はもともと、JR から奈良市に譲渡されたものです。駅舎の歴史的価値を守りながら活用する方法を検討した結果 6 年前に外壁や内装の改修が行われました。現在は駅舎内にカフェが併設されており、訪れる人々が食事や交流を楽しめる空間になっています。地元出身のボランティア駅長が駅の清掃や観光案内を行っており、地域住民だけでなく観光客も安心して利用できます。誰でも自由に弾いていいピアノをきっかけに、定期的に演奏会が行われるようになりました。

柳本駅（天理市）：昭和 5 年に建てられた駅舎は、なまこ壁があったりして地域のシンボルとして住民に愛されてきました。地域住民が中心となって設立した協議会と行政が協力し、駅舎の保存と活用に取り組みました。現在は駅構内に食堂が作られ、地元の人々が料理人として切り盛りしています。この食堂は、単に食事を提供するだけでなく、地域の人々が集まる交流の場となっています。朝市や歌声駅舎をやっています。

今後の活用が予定されている駅舎の事例

櫛本駅（天理市）：JR から天理市に譲渡されており、駅舎を「一日一組限定のホテル」として活用する計画が立てられています。

畝傍駅（橿原市）：皇室が利用する貴賓室があることで知られる駅です。再活用に向けた計画が検討されています。

帯解駅（桜井市）：国の有形文化財に登録されており、復元・整備される予定です。

建て替えられた駅舎の事例

香久山駅（橿原市）：大正 2 年に建てられた駅舎は、6 年前にコンパクトな新駅舎へと変わりました。老朽化が進んでいたことや、コストを抑える必要があったため、建て替えという選択がなされました。

